

【議会報告会】

○全国ファミリー音楽コンクールの入場料は無料なのか。

⇒議員 入場料は無料である。

○以前、市の担当部局に入場料の有料化について提案したところ、集客に影響するため有料化は難しいとの回答だったが、委員会としてどう考えるか。

⇒議員 入場料を有料にすると入場者数が減少し、事業の開催に影響があると思われる。

○全国ファミリー音楽コンクールは、市補助金650万円に対し、来場者数が1500人であるが、四日市JAZZフェスティバルのほうが少ない補助金で数万人の来場者がある。より少ない補助金で多くの市民が参加できるよう、予算の使い方や事業のあり方を検討すべきではないか。

⇒議員 これまでも全国ファミリー音楽コンクールについては市議会の中で議論してきたが、賛否両論それぞれあり、多くの課題も指摘されている。いただいた意見を参考に、行政とともに考えていきたい。

○来場者のほとんどが出場者の関係者であり、市民の参加が少ない。市民の多くはこの事業を知らないため、公費を使って開催することに疑問を感じる。

○昨年、実際に全国ファミリー音楽コンクールを見て、非常に感動した。市民に浸透していないことは問題だが、芸術や芸能は浸透するのに時間がかかると考える。良い事業であり、試行錯誤しながら継続してほしい。

⇒議員 会場で演奏を聞いてみるまでは、どちらかといえば事業の継続に否定的な考えをもっていたが、実際に来場すると感動的で非常に良いコンクールであると感じた。全国から参加者が来てくれる大会は貴重であるものの、広く市民に周知が行き届いていないことは課題であり、その点は同感である。

○四日市市には道の駅がない。道の駅を作り、市の名前の由来にもなっている定期市の機能を持たせてはどうか。

⇒議員 三滝川慈善橋市場は好調で、若い世代の参加も増加し、売り上げが2、3倍になっ

たという声も聴いている。道の駅ができれば、小規模農家の方が出品しやすくなり、農業で生計を立てやすくなる。若い世代の農業参入を促すこともできると考えられるため、設置場所が難しいが、海側と山側にそれぞれ1か所作ることが理想と考える。

### 【シティ・ミーティング】

○最近はお茶に親しむ場が非常に少ないと感じているが、例えば、萬古焼の急須で淹れたお茶を飲むイベントを市役所や総合会館などで実施し、PRに努めてはどうか。

⇒議員 シティ・プロモーションの一環として、東京や大阪などで、萬古焼の急須で入れたかぶせ茶の試飲やお茶の淹れ方の講座などを行いPRに努めているが、市内でも、市民がお茶に親しむ場を今後検討していきたい。また、萬古焼とかぶせ茶を関連付けたPRについては以前からご意見をいただいております、萬古焼とかぶせ茶をセットにしたPRも始めているところである。

⇒議員 全国的に急須でお茶を淹れる機会が少なくなっており、他自治体の「日本酒で乾杯条例」などのように、本市においても萬古焼とかぶせ茶の普及促進を図る条例制定を検討しても良いと考える。

○渋いかぶせ茶とセットで甘いお菓子のPRも検討してはどうか。

⇒議員 かぶせ茶は渋いだけでなく、お湯の温度で味が変わる特徴もあり、甘みもある。かぶせ茶の味の奥深さについてもPRしていきたい。

⇒議員 茶業振興センターの建て替えを機に、水沢地区でグリーンツーリズムに取り組めないかと考えており、ふれあい牧場などと関連付けてかぶせ茶のPRをしていきたい。特に、昔京都や奈良へお茶を売り出していた歴史ある千年前の原木が見つかっており、外国人観光客向けにお茶の歴史やエピソードを交えてPRすることで、興味を持ってもらい、そのことから市民の関心も呼び起こせるのではないかと考える。加えて、健康づくりをキーワードに抹茶として提供するなどの新たな取り組みをすることで、かぶせ茶のPRに努めていきたい。

○かぶせ茶は輸出しているのか。

⇒議員 少量ではあるが輸出に力を入れている茶農家もある。

⇒議員 輸出先の国々の農薬規制が国内とは異なるため、国内販売用とは別に輸出用に栽培する必要があり、経営上の課題があると聞いている。

○他地域の焼き物のように、著名な陶芸家がいると知名度や作品の売り上げも上がってくる。萬古焼についても陶芸家の育成に力を入れ、知名度の向上を図ってはどうか。

⇒議員 新たな陶芸家が出てきて有名になるためには、まずは売れることが重要であり、需要が少ない中では若手の陶芸家も育ちにくい。売れるようにするためには経営方法も重要であり、振興組合と商工会議所、行政が協力して取り組む必要がある。また、陶芸家の育成については県や教育の分野との連携も重要であり、四日市工業高等学校などと協力し、陶芸家を生み出すための機運を高めることが大切である。

⇒議員 市はやきものたまご創生塾という陶芸家を育成する事業を行っており、昨年度は2名の方が修了している。

○装飾品のような焼き物ではなく、一般家庭で使えるような市民の生活に密着した製品を作ることが、萬古焼の発展につながると考える。

○萬古焼の担い手の高齢化が進んでおり、業界の衰退が懸念される。技術の継承に力を入れてほしい。

⇒議員 萬古焼は海外ではブランドとして人気があるが、市民はあまり関心がないように思われる。業界として日常生活で使える商品を作るなどの努力を行い、業界全体を盛り上げていく必要があると考える。また、技術を持っていても、後継者不足を理由に廃業する事例もあるため、10代の若手や外国籍の人も広く呼び込むなどし、新たな担い手確保に努めなければならない。

⇒議員 萬古焼とかぶせ茶のそれぞれの業界が活発に意見交換すれば、面白い取り組みができるのではないかと思う。新たな取り組みがあれば、市として支援していきたい。

○ばんこの里会館でイベントなどを催す際に駐車場が足りず困っている。

⇒議員 ご意見として承る。

○全国ファミリー音楽コンクールの場において地場製品の販売を行っていることは評価できる。今後も全国規模のイベントなどを活用してPRに努めてほしい。

⇒議員 中央緑地体育館での大会の開催に合わせて地場製品の販売を提案したことがある

が、じばさん三重の協力が得られず実現しなかったことがあったため、地場産品を販売する仕組みづくりを検討していかなければならないと考えている。また、西尾市では、茶葉の9割を抹茶に加工し、ブランド化してうまく売り上げを伸ばしていると聞く。かぶせ茶についても販売方法を工夫する必要があると考えている。

○四日市港から中部国際空港への連絡船について、今後の動きはどうなっているのか。また、四日市港について観光と結び付けて考えることはできないか。

⇒議員 行政として船を運航することは考えていない。また、観光とは異なるが、JR 四日市駅周辺の活性化と合わせて、四日市港の活性化の検討をしていきたい。

○シティ・ミーティングのテーマを早く知りたいので、年度当初に予め1年間のテーマを決めて広報してもらえないか。また、委員会によっては同じテーマを何度も行っている。例えば、総務常任委員会では防災対策についてこれまで14回、都市・環境常任委員会では公共交通について9回、産業生活常任委員会では産業振興について7回行っているが、テーマをどのように設定しているのか。

⇒議員 現状は、4つの常任委員会が各定例月議会においてそれぞれ議会報告会の会場を決定した後に、より多くの意見をいただけるよう、開催地の地域性を考慮してテーマを設定しているため、タイミングを考えると年度当初に広報するのは難しいと考える。また、テーマについては、例えば総務常任委員会では、東日本大震災後に「防災対策」をテーマにして、あえて同じテーマで多くの地域に出向いて意見をいただいていた時期があった。

○議会報告会の開催場所はどのように決定しているのか。

⇒議員 議会報告会はこれまでは1か所を総合会館に固定していたが、今定例月議会から市内を4ブロックに分け、委員会ごとにローテーションを行いながら開催場所を決定している。また、今定例月議会では初めて民間施設で開催した。さらに、参加者の減少や固定化が見られたことから、来年1月には市制120周年記念シティ・ミーティングを企画するなど、より充実した場となるよう実施方法や内容の検討を行っているところである。